

令和7年度すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム報告書

1 趣旨

墨田区における地域福祉の推進とボランティア活動への参加促進を図るため、民生・児童委員、ボランティア活動者、小地域福祉活動参加者、福祉施設・福祉事業者など地域福祉とボランティア活動の関係者や活動に関心を持つ者等が一堂に会し、地域福祉・ボランティア活動について一緒に学び、考え、交流し、広く活動への参加を呼びかけます。

令和7年度は「すみだボランティアセンター開設40周年記念式典」と合同開催とし、「リアルなつながり 地域貢献で出会える新たな自分～誰かのための自分のために～」をテーマに開催しました。

2 日時

令和7年7月5日（土）午後2時から午後4時30分まで

3 場所

すみだリバーサイドホール イベントホール

4 内容

（1）講演 「地域に踏み出すパラレルキャリアという考え方」

東京ボランティア・市民活動センター 加納 佑一 氏

一般社団法人藝と ディレクター 青木 彬 氏

（2）グループディスカッション

（3）まとめ

5 主催

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム実行委員会、墨田区、墨田区社会福祉協議会

6 参加者数

所属等	人数	所属等	人数
ボランティア・個人	45名	介護予防リーダー・サポーター	2名
録音・朗読ボランティア	7名	東京都社会福祉士会	1名
興望館関係者	5名	実行委員	11名
あしたの会	6名	墨田区社会福祉協議会職員	20名
手話・点字ボランティア	8名	区職員（地域福祉課）	12名
高齢者支援関係者	6名	墨田区社会福祉協議会関係者・講師	7名
民生・児童委員	6名	区職員（その他）	4名
合 計			140名

※合計の内、式典からの参加者は50名

7 概要

(1) 司会者紹介

今年度は実行委員の口町委員、黒田委員が司会者でした。

(2) 開会挨拶

五十嵐実行委員長から挨拶がありました。



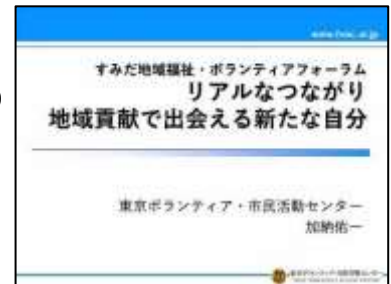
(3) 講演

テーマ：地域に踏み出すパラレルキャリアという考え方

講師：加納 佑一 氏（東京ボランティア・市民活動センター）

青木 彬 氏（一般社団法人藝と ディレクター）

ファシリテーター：新井 尚恵氏（墨田区社会福祉協議会）



【加納 佑一氏】

普段は東京ボランティア・市民活動センターの職員として、ボランティアをしている方や企業の方々、団体の方々などのボランティア活動や社会貢献についてのお気持ちをお聞きし、いろいろな活動につなげるコーディネーターの活動を行っております。東京ボランティア・市民活動センターは通称“東ボラ”と呼んだりしますので、ぜひ“東ボラの加納”で覚えていただけると嬉しいです。今回のテーマはパラレルキャリアということですので、東京ボランティア・市民活動センターの職員として、というよりは私個人としてどのようなボランティア活動をしてきたのかについてお話しさせていただきたいと思っています。先ほど五十嵐実行委員長のご挨拶でもあったとおり、私は学生の頃からボランティア活動をしていました。仕事でのつながりではない、地域でのつながりというものがどのような形でできたのか、皆さんには、こんな人もいるのかというお気持ちでお聞きいただければと思います。

私の最初のボランティア活動を始めた理由は、“内申点をあげるため”でした。先ほどの記念式典では学生の方もいらっしゃったので、どうかなあとは思いましたが、事実として、高校生の時、大学進学のために内申点を上げたいと思っていたところ、先生から「こんなボランティア活動があるよ」ということで教えていただきました。最初の活動は知的障害の方々への余暇支援で、公園に行って遊ぶというボランティアに参加させていただきました。高校3年生の頃でしたが、この時初めて自閉症の方と出会いとても衝撃を受けました。こんな世界があるんだ、と思い自分の世界の狭さをそこで知り興味を持つようになりました。そして大学生となり、神奈川県にある神奈川県立保健福祉大学という学校に入学してボランティア活動をやってみようということになりました。私が入学した時がたまたま1期生で、サークルなど何もない状態でしたので、友人とボランティア活動のグループを作ろうかということで、夏休みに障害のある子どもたちを3日間連続で預かって活動するというイベントを企画しました。学生の頃は時間がたくさんあったので、友人にも手伝ってもらって活動をしていました。この時に初めてグループというものを作らなくてはいけないんだ、ということを知りました。また、「武山養護学校」という学校の方々から、こういう風にやるといいよ、こういうことに気を付けるといいよ、といったことを教えていただき、イベントを開催することができました。そして、そのような活動を行っている、地域の社会福祉協議会の方々や、横須賀は市民活動サポートセンターというところもあったので、そこの方々と

知り合いになり、“暇そうにしている手伝ってくれそうな加納っていう学生がいるぞ”、ということが広まり、災害が起きた時に声をかけていただきました。2004年に新潟で7.13水害という水害がありましたが、いきなり“明日暇？”と言われて、空いていることを伝えると「じゃあ明日5時半に家の前にいくからよろしくね」と言われました。次の日に車を開けるとスコップを持っているおじちゃん達が5人くらい乗っている、みたい。これからどこに行くのか尋ねると、“これから長岡に行くんだよ”と言われ、驚いている中で連れて行かれたのが最初でした。最初は支援活動の方にも足を突っ込む形で、ここでも色々な方々とつながりが生まれました。当時一緒に活動した仲間は今もつながっていて、たまに会ったりしています。災害ボランティアに行くと、限られた地域の方々だけではなく、全国から色々な方々が支援に来るので、そこで少し離れた地域の方々とのつながりもできたというのは、私の人生にとってすごく良い経験ができたと思っています。

そのような活動をしていると、色々なところが声をかけてくださるようになり、今思うとそんな風に声をかけてくださる方っていうのが地域にとってすごく重要なあ、と感じています。また、横須賀でボランティアや市民活動を応援するボランティアまつりや、市民活動祭りのようなものがあり、その実行委員会に声をかけていただいてイベントを行うこともありました。今写真に写っているのは、子どもの支援を行っている団体さんですが、他にも環境の活動をしている団体さんや、障害者の支援をしている団体さんなど、本当に様々な活動をしている団体が地域にあるんだということを知ることができました。



そんな活動をする中で、一緒に考えて悩んだ友人は今も悩みを相談できる仲間になっているなあと思います。この方はボランティア活動で知り合った難病と障害をお持ちの方で、かつゲイの方でもあるんですけど、話をしているとすごく楽しくて、最初はボランティア活動で知り合ったけれど、途中から友達みたいな関係になってきて、段々自分はボランティア活動として会っているのか、それとも友達として遊んでいるのか、どちらなのか分からないような不思議な感覚になることもあります。

こういった活動で私が今思っているのは、活動の中で一生もののつながりを得られたということです。地元で住んでいるところが近いということもあるかとは思いますが、色々なことを一緒に体験して、一緒に見て、一緒に悩んで、という時間を過ごしてきたということで、私の考え方や悩みを分かってくれている、という信頼が培われてきたと思っています。

実は本日7月5日ですが、今日から7月21日まで、横須賀にある津久井浜で写真展を開催しています。「増G写真展」というもので、「増G」って誰だろう、と思われると思いますが、昨年の12月28日に亡くなられたおじいちゃん、先ほどの災害の活動もそうですが、市民活動などで一緒に活動をしていました。いつも怒っていて、どこ行っても喧嘩してしまうような方で、横須賀では名物おじいちゃんでした。そんな増Gが写真を撮ることが好きだったので、弔いとして写真展をやろうか、ということで増Gが好きだったブルームーンという喫茶店に写真展をやらせてほしいとお願いし、仲間の皆と企画して本日から開催しています。こういったことがきっかけで、久しぶりに大学時代のつながりで会っ

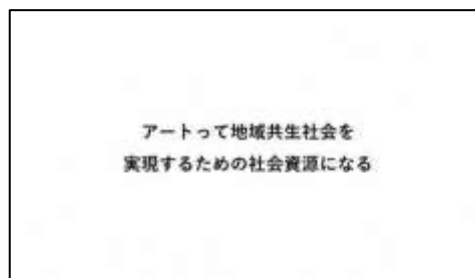
てまた同じものを企画してみて、仕事とは違うつながりが自分の中にあるんだなあということを再認識した活動でもあったと思っています。ぜひ皆さんも旅行がてら津久井浜に足を運んでいただければと思います。

それともう一つが、地域や社会の見え方です。こちらについても、ボランティア活動をしていなかったら多様な価値観や多様な人たちに触れることはなかっただろうと思います。町を歩いていたり、新聞を見たり、ニュースを見たりする中での捉え方や、どうしてこのような社会になっているのだろうか、といったことや、これで苦しんでいる方々がいるのだろうか、といった、ニュースの向こう側に想像が行くようになったと思っています。単に文字で見るだけではなく色々な方々と話をすることによって、こんなことに困っているんだな、こんなことが嫌なんだな、ということを話をしながら実体験として理解できたという風に感じるが多かったです。私もボランティア活動は時間を取られたり、喧嘩をしたりすることもあるので大変に思うことも多々ありますが、やはり自分の人生を豊かにしてくれているものの一つだなあと思って過ごしています。

【青木 彬氏】

僕は個人の肩書で言うと、“キュレーター”と言い、現代アートの展覧会やプロジェクトの企画運営を、関東圏を中心に色々なところで行っています。アートと聞くと、美術館とかを想像されるかと思うんですけども、僕はいわゆる美術館とかギャラリーみたいに白い壁紙で囲まれた綺麗な空間というよりは、もっと街中や屋外とかでやることが多いです。ここにお見せしているのが今まで活動してきた場所で、例えば左上にあるのは墨田区の福祉施設で、この中で展覧会をやったり、右下にある元工場で行ったり、右上の写真なんかは山の中で展覧会をやったりとか、公共空間とか色々なところで展覧会をやっています。また、展覧会だけではなく、人が関わって体験するようなワークショップなんか色々なところで開催してきました。また、僕はアートの部分で街づくりや、最近だと福祉分野の方と協働することが多くあり、そういった経験を基に文章を書くこともお仕事でしています。

先ほど加納さんからも学生時代のお話がありましたが、僕が最初アートに出会ったのが学生時代で、一般大学の中の芸術学・アートマネジメントを学ぶ学科に進学し、アートの勉強をしていました。アートマネジメントというのが、アーティストや、芸術祭に行かれたことがある方もいらっしゃるかもしれませんが、そういうアートの方々のマネジメントや裏方をする中で、そういったことを学んでいました。その際実際の学生たちが企画した内容を地域を使って実践することがありました。当時は今から15年〜20年くらい前なので、アートマネジメントがツールとして浸透し始めてきた最中で、実はそういうプロジェクトに関わるボランティアの方々が搾取されているのではないか、という研究や論文が出ていた頃でした。それこそ学生や地域の人がアーティストの活動を手伝うようになって、でもそれって地域の人に見返りがあるのか、人材として使われているだけなんじゃないか、という風に批判的に見る研究とかが出てきたりしていました。そんな中でこれは自分たちのことなのかと思いつつ、自分はそこに関わる中で得るつながりだったり、自分が関心のある分野に関わっていけることがすごく楽しかったです。大学の学びの延長で、知り合ったアーティストたちの制作をボランティアで手伝っていくこともあり、そこから自分がアートに関わっていくことが始まりました。



街の中でアートプロジェクトと呼ばれるものを行っていく中で、どうやら自分たちがやっていることは地域活動という呼ばれ方をすることもあるらしい、と知り、福祉部門の方々とも協働するようになりました。例えば3年前のボランティアフォーラムで“アートと地域活動”ということで分科会に参加させていただき、それがご縁でボランティアまつりにワークショップをするブースを出展させていただいたりとか、こういうことが続いていく中で、もっともっと地域活動、いわゆる福祉について学んでみようと思い立って、2年ほど前から社会福祉士の資格を取るために通信で大学に通って勉強を始めました。

今年の2月の試験で社会福祉士の資格を取得しましたが、その実習中に実習先の施設で、レクリエーションをやってくださいと振られました。自分はアートに関わることを企画することを生業としていたので、ミニチュアの作品として小さな展覧会を作ることを提案しました。自分が今まで学んできたことが違う分野でこういう風に役に立つんだ、ということを実感し、段々福祉の人たちが考えていることや福祉分野の制度のことも勉強をする中で見えてきて、もっともっとアートと福祉がこんな風に横断できるんじゃないかということを感じました。これは大きい話になるかもしれませんが、アートは美術館とかギャラリーの中で終わる話ではなく、もっと地域の中で地域活動を通じてアートを促進していくことで、福祉的に地域共生社会を実現していく社会資源みたいなものになっていくんじゃないかと思っています。実は自分が今までやってきたことが異なる分野から見るとこんな価値がある、というパラレルキャリアみたいなことに繋がっていくのではないのかなと思いながら勉強させていただきました。

【加納氏、青木氏、墨田区社会福祉協議会 新井氏の対談】（敬称略）

新井：墨田区社会福祉協議会の新井と申します。もう少し詳しくお二人のお話を聞きたいところではありますが、グループディスカッションのヒントになるようなお話をお二人から伺っていきたいなと思っています。先に青木さんの方からお話をお伺いしたいのですが、正直な話アートと地域福祉というと、皆さんの中ですぐには繋がりにくいと思うんです。墨田区で活動を最初にされた際は最初から皆さんがウェルカムだったのか、やっぱりそうじゃない方もいたのか、またそこをどうやって乗り越えていらしたのかということをお話いただけますでしょうか。

青木：それでいうと、初めは地域活動とか地域の中でアート活動をしようと思って始めたわけではなくて、墨田区に2016年にアーティストの友人と引っ越してきて小さな長屋を借りたんです。そこを自宅兼アトリエ兼ギャラリーみたいに自分達でDIYをして使っていて、例えば最初に引っ越してきて初日にご近所挨拶をしてから改装をしようと思っていたのですが、ちょっとした手違いでお隣さんにご迷惑をかけてしまい、当たり前ですけどすごく怒られたんです。そこからどうにか関係を修復していきたいなと思い、まずは掃除だと思って毎朝家の前の道路を友人と掃き掃除していました。そこから始めて段々お隣さんも心を開いてくれるようになり、あの時は怒ってごめんね、と言ってフルーツを持ってきてくださったり、そういうことからご近所づきあいが始まりました。ほかにも僕らの自宅の壁に海外から来たアーティストが絵を描いてくれることがあって、下校中の小学生が“見て良いですか”、みたいに足止めてくれて、ご高齢の方も声をかけてくれて、“こういうことをしていて、ほかに描けるところ

ないですかね”と言ったら“僕がその商店街に聞いてきてあげる！”と自転車でびゅーっと行って、“八百屋の何とかさんがいいって言っていたよ！”みたいな。ちょっとずつ表現を通じて近所の人たちとコミュニケーションが始まっていったように感じています。僕らが家の中で展覧会とかやっている、近所の方が来て何を描いているか分からないけどまあ気持ちがいいね、と言って帰って行ったり。そこで取るコミュニケーションってアート云々みたいな話じゃないんですよね。その人にとっては会話において何がアートかは重要じゃなくて。そこでアートっていうものがいわゆるアートの中だけの価値じゃなくコミュニケーションになるんだということを実感していて、そういう姿勢を学ばせてもらってからはちょっとずつどうやってコミュニケーションをとったらいいかということ、体験として学べた感じですかね。

新井：やっぱり興望館さんでさえ最初は“え？”という感じだったんですよね。

青木：墨田区だと興望館さんという曳舟駅近くにある施設さんと、2019年くらいから色々プロジェクトをさせていただいて、さっきの左上の施設も興望館さんで、この時は興望館さんの歴史をテーマに展覧会をさせていただきました。最初は僕も興望館さんにいきなり行って、“地域福祉に興味があるんです”、って言ったらすごく驚かれて笑い話みたいな感じだったんです。ただ、そこから約1年ほど個人的に通いながらアートと福祉の似ているところだったり違うところだったりについてを意見交換をさせていただく中で、少しずつこういうことだったら一緒にできるかもしれないという道を見つけていくことができました。最初はトークイベントから始まり、次は学童に通う子どもたちとワークショップをやってみたり、そこから展覧会になって、展覧会が終わった時に職員さんから“青木さん達とアートを一緒にやるとどんなことが起こるのか分かった気がします”、と言っていたのが僕はすごく嬉しかったです。アートって“こういうものです”と僕らが説明できるものじゃないし、その価値観を押し付けることでもないけど、なんとなく一緒にやりながら、なんとなくこういう経験か、ということに気が付いたのはすごく良い経験だったな、と思っています。

新井：時間をかけて一緒にやっていき、少しずつ交わっていくことで楽しさが見えてきたのかなあと感じました。加納さんは初め学生のボランティアとして入ったということでしたが、少し気になったのは受け入れてくださった方、例えば養護学校の先生がすごく良かったというお話がありました。実際に今日来ている皆さんも、受け入れる側になったりすることもあるかと思いますが、加納さんの場合はどういった面で助けられたりすごく良かったと思われましたか。

加納：当時も今もそうですが、学生のときは何も考えずに行動をしているので突拍子もない発言をしたり突拍子もない行動をしたりして、それを面白おかしく受け止めてくれたなあという印象があります。そういうことをしたいならあそこに行ってみるといいよ、とか今度こんなのあるよ、とか色々提案をしてもらいました。提案をしてもらったことで、どんどんやっていくうちにつながりが増えていったように感じるので、駄目元で声掛けをしていただくのはすごく大事なことだと思います。私は今それを仕事としてやっていますが、今度こういうのがあるから来てみない？とか言って駄目だったら駄目で別に減るものでもない、それは大学生の時にすごくしていただいたなと思っています。

新井：ありがとうございます。実際に今お二人が色んな活動を併行してされていると思いますが、その中には自分達が飛び込んでいく勇気も必要だし、受け入れる側の懐の深さもすごく大事になってくるんだろうと思いました。青木さん、フォーラムテーマの副題でもあります「自分のために誰かのために」、を実感できたお話しがもしあれば教えていただけますか。

青木：具体的ではないかもしれないんですけど、よくアートって自己表現と言われたりするんですね。それは個人的には半分合っていて半分違う考え方もあるような気がしていて、というのもアーティストってもちろん自分が表現したいことに真剣に向き合っていて、表現を作っている人たちなんですけど、でもそうやって個を突き詰めていくと、それに共感してくれる誰かが必ず世界にはいる気がするんです。それって多分自己満足みたいな、自分の中だけで完結することじゃなくて、やっぱりどこかで公共的だったり誰かとつながっていく力を生めるものだと思っていて、今後誰かのために、ということも大事だし、でも自分のためにもそうやって突き詰めていくと共感してくれる人がいるっていうのが、ボランティアとか一緒に活動していくことの面白さなのかなと思います。アートに関わっていてもそうだし実習だったり福祉分野の人と協働したり、僕も福祉施設でボランティアをしたことがあるんですけど、そういうどんな分野の中でもそれは共通していることなのかなと感じます。アートにおいては特にそこが自分の表現というものを突き詰めていくことで、思わぬ人とつながることが魅力だなと思います。

新井：ありがとうございます。加納さんからもお願いいたします。

加納：災害の支援活動で被災地に行ったとき、バスで行った地域で振り返りの会というのがあったんですね。学生も何人かいて、振り返りをしたときに結構いろんな参加者の方が自分の得意なこととか、興味関心と災害というものを掛け合わせて考えて被災地支援をしていたんです。私は福祉の系列の学生だったんですが何も考えずに被災地に行って、振り返りの時も「みんなで泥出しすると早いと思いました」というすごく薄っぺらい感想を言って、ただ情報系の学生なんかだと「通信が切れたことによって被災者の生活が～」とかそんな感想を言っていて、すごいなあと思いました。今思ってみるとそれが今私が専門としている福祉というものと災害というものを考える、最初のきっかけだったかなと思っています。誰かのために、で最初に行ったんですけど、結果的に自分が関心のある福祉というものと災害というものを考える最初のきっかけになったんだなあと思うと、誰かのために行ったものが、自分のためになったのかなあと思いました。

（４）グループディスカッション

テーマ：①ボランティアを通じて得たものみんなでシェアしよう

②自分の好きなことってボランティアにどう生かせる？

趣 旨：ボランティア活動を通じて得られる気づきや、自分の好きなことを生かせるボランティアの形を考え、参加者同士でアイデアや感想を共有していただきました。



（５）まとめ（グループ発表・ご感想）

【第１０グループ：上原委員】

一つ目のテーマであるボランティアを通じて得たものについては、仲間が増えた楽しさや、新しい人とのつながり、などの意見が出ました。また、学びを得たという意見も出ました。ボランティアで何かしようとする、人に教えるなくてはいけないという場面があるかと思いますが、人に教えることを通じて自分の学びにつながった、という話を伺いました。また、ワクワク感により自分の若返りにつながった、という意見も聞くことができました。

二つ目のテーマである自分の好きなことをボランティアにどう生かせるか、ということについては、電車にあまり乗ったことがない方々を連れて一緒に電車に乗るボランティアでその方々にとって新たな景色や電車についての知識を伝えられた、というお話がありました。また、歌やマジックが好きな方は色々な場所で歌を教えたり、マジックを披露したりすることで、周りの方々に喜んでもらえた、というお話も伺いました。

そしてほかにも、以前オーストラリアからインドの方の留学生を受け入れて、その後約３０年経ってから当時留学生だったその方が突然会いに来てくれてすごく嬉しかった、というお話はとても印象的でした。留学先で嫌な思い出が少しでもあれば、再度訪ねてくることはないと思うので、その方がとても温かく受け入れたことで留学生だった方の、“また会いたい”という気持ちにつながったのだなあと感じています。

【第１５グループ：高城委員】

一つ目のテーマであるボランティアを通じて得たものについては、様々な意見をいただきました。まずはボランティアをすることで人に頼ることができるようになったというお話がありました。ボランティアは仲間と一緒に助け合って行うことも多いため、そういった点から普段から人に頼ることができるようになったそうです。また、個人ボランティアの方は、相手の方と個人的に深いかわりを持つようになって、信頼関係を得られたというお話もありました。そこから人との信頼関係やつながりの大切さを学ぶことができたそうです。職場でのボランティア活動をされた方は、他の企業の方とつながることができたり、若い社員の成長につながったりしていると感じた。また、ボランティアを通じて自分の世界や知識が広がったという意見もありました。

二つ目のテーマですが、現在やっているボランティアは自分の好きなことをきっかけに始めた、という方が多かったです。元々やっているスポーツでのコミュニティをボランティアに生かしたいという方や、自分の興味のあることを生かせる場所を広げたいという方、また今やっているボランティアをもっと掘り下げて色々なつながりを得たい、といった意見がありました。このグループは現在も活発に活動している方々が多く、今やっているボランティア活動が好きなことなので、今やっている活動を区外にも広げていきたいというお話やディスカッションの中でグループ内でのつながりができ、何かできないかという話まで発展しました。

【加納 佑一氏】

色々なグループを歩きながら拝見しましたが、この地域には様々な活動をされている方がたくさんいらっしゃる、墨田区は本当に素晴らしい地域だなあと感じながらお話を聞かせていただきました。あるグループでは、趣味をやっている時間がないというほど地域で頑張っている方や、一個活動をしたら色々な活動につながりそれが自分の生きがいになっているという方がいて、お話を聞いている中で私自身もすごく元気をいただきました。本日は本当にありがとうございました。

【青木 彬氏】

僕はボランティアフォーラムの存在を知ったのが4年前で、3年前に初めて分科会に講師として参加させていただいてから毎年参加しており、今回も3年間で知り合った方々が声をかけてくださり、このボランティアフォーラムという場は墨田区で地域を支えている方が集まる素敵な場だと改めて実感しました。周らせていただいた中で、皆さん積極的に活動されていたり、もっとこんな活動ができるんじゃない？というアドバイスをされていたりという風景を拝見し、またここから色々なことが生まれるんだなあとと思うと、墨田区に関わる一人としてもすごく楽しみになる一日でした。本日はありがとうございました。

【五十嵐実行委員長】

本日はお暑い中、またお忙しい中、お時間を作ってこの場に集まってくださったことを改めて感謝申し上げます。グループディスカッションの感想はお二人におっしゃっていただいたとおりで、本当に墨田でここに集まる方々は色々な活動に積極的に参加されていて、素晴らしいなと思いました。ぜひ今後多くのお仲間がここに集っていただくことが、フォーラムの意味なのではないかということも感じました。そして今回ご登壇いただいた青木様、加納様、改めてありがとうございました。私はお二人とも以前から存じ上げておりましたが、短い時間の中でお二人のルーツにつながるようなお話を伺うことができ、改めてお人柄が伝わってきて嬉しい機会でした。ただ、きっと実際なさっている活動はもっとたくさんあって、本日の時間内では披露できなかっただろうなと思いました。私のグループでは色々な話が出ましたが、最後は婚活のようなお話になり、40代の我が子はどうしたら結婚できるだろうか、というところから、意外と福祉課題につながっていない若い方々の中で、自分の仕事は一生懸命やっている仕事の仲間はいくらでも地域につながるきっかけがないなあ、という方がいらっしゃるのではないのかなあと改めて思いました。そんな中でお二人は人をつなぐプロでいらっしゃるの、これからも地域福祉課題には色々な世代に関わってもらって、それがそれぞれの人の人生を豊かにしていく、ということと一緒に学び直したり、ここにいらっしゃる皆さんと一緒に活動の場を作っていったりすることができればよいのではと思いました。来年もこのイベントは続いていくと思いますので、皆さんの1年の実践を持ち寄って、新しい仲間も連れてきて、益々このつながりを深めていくことができればよいなあと思いました。本日は長い時間どうもありがとうございました。

(6) 閉会

墨田区社会福祉協議会前田事務局長から、挨拶があり閉会となりました。

8 その他

(1) 実行委員会の開催

本フォーラム実施に向け、「すみだ地域福祉ボランティアフォーラム実行委員会」を設置しました。

回数	日時・場所	内 容
第1回	4月10日(木) 午後1時30分 31会議室	役員の選出、内容の検討
第2回	4月24日(木) 午後1時30分 82会議室	テーマ・内容の検討
第3回	5月15日(木) 午後1時30分 21会議室	テーマ・内容・チラシデザインの検討
第4回	6月5日(木) 午後1時30分 81会議室	GDの進行・役割分担の検討

(2) 実行委員(敬称略)

五十嵐 美奈(委員長)	黒田 佐恵子	上原 敏也	杉崎 和洋
石井 智子(副委員長)	高城 香織	谷 由美子	若菜 進
口町 光弘	加藤 麻衣	前田 恵子	金子 明

(3) 広報

区のお知らせ(6月21日号)、すみだ社協だより(6月号)、墨田区ホームページ、墨田区社会福祉協議会ホームページ、チラシの配布等により、PRを行いました。



(4) アンケート結果

ア 本日のイベント「すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム」について

Q1 すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムに参加したことがありますか？

初めて	33名	3回目	4名	8回目	1名	10回目	1名	複数	19名
2回目	5名	4回目	1名	9回目	1名	14回目	1名		

Q2 すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムは何で知りましたか？(複数回答可)

区・社協のホームページ	5件	知人等から誘われて	4件
チラシ	6件	所属団体からの連絡	29件
区報・社協だより	8件	その他	16件

その他：参加した講習会、インターネット検索等

Q3 内容について

(ア) 全体

よかった	42件
どちらかといえばよかった	16件
どちらかといえばよくなかった	1件
どちらともいえない	2件

※未回答4件

(イ) 講演会

よかった	39件
どちらかといえばよかった	18件
どちらかといえばよくなかった	1件
どちらともいえない	3件

※未回答4件

(ウ) グループディスカッション

よかった	40件
どちらかといえばよかった	10件
よくなかった	1件
どちらともいえない	5件

※未回答9件

イ ご自身の活動について

Q1 お住まいの地域でご近所づきあいをしていますか？

困りごとや悩みごとを相談している	10件
困りごとや悩みごとの相談まではしていないが親しく会話している	18件
たまに立ち話する程度の付き合いはある	11件
会えば挨拶をする程度の付き合いはある	16件
付き合いはほとんどない	7件
その他	1件

Q2 現在ボランティア活動・地域福祉活動をしていますか？

している	52件
していない	13件

Q3 具体的にどのような活動をされていますか？

町会自治会活動	19件	福祉施設の手伝い	10件
地域の障害者や高齢者への見守り、手助け	14件	災害ボランティア	6件
地域の子どもや子育て世帯への見守り、手助け	11件	国際交流・国際協力	3件
各種イベント運営の手伝い	14件	その他	17件

その他：散髪ボランティア、介護予防リーダー、学校の部活動、点訳、民生児童委員、手話サークル等

Q4 今後どのような活動をしてみたいですか？

町会自治会活動	13件	福祉施設の手伝い	16件
地域の障害者や高齢者への見守り、手助け	26件	災害ボランティア	9件
地域の子どもや子育て世帯への見守り、手助け	14件	国際交流・国際協力	14件
各種イベント運営の手伝い	16件	その他	10件

その他：市民後見人、シニア食堂、朗読、障害者の当事者活動等

ウ 本日の感想や、今後とりあげてほしいテーマ等

【～20歳代】

- ・ボランティア活動を難しく考えず、気軽に始めてみたい、思いがけないことや好きなこと、経験がボランティアにつながるということを学べて有意義な時間だった。
- ・自分とは違う立場や年齢の方々のボランティアに対する考え方や経験などが様々聞けて非常に興味深く、勉強になった。

【30～40歳代】

- ・もっと若者（中高生、大学生）が参加しやすい内容もあると良い。
- ・ボランティアをする方は意欲が高い方ばかりで、今後このような方が増えれば優しい地域のすみだになると思った。
- ・色々なお話を聞くことができてとても楽しい時間だった。
- ・ボランティアはほぼ未経験だったが、まずは社協に足を運んでみることからでも自分にもできることが見つかるかなと思った。また、個人では限界があるため仲間や団体とつながることが必要であると感じた。
- ・グループディスカッションでは素敵な人たちとお話しできた。今の時代、目的をもってつながることが多く、自然につながる機会や近所での付き合いが減っているため、今後子どもから大人まで参加できる会が増えると良いと思う。
- ・とても良かった。
- ・子ども食堂について取り上げてほしい。

【50～60歳代】

- ・色々な世代の方と情報交換ができてよかった。また、色々なことが共有できた。
- ・グループディスカッションが有意義だった。他の分野でも通じることが多かったり、新しい発見があった。
- ・ボランティアは良いことばかりではないし、心のゆとりがないとできないため、もっとボランティアをしていて困ったこと、悩んでいることをどう乗り越えたかを共有し、知りたい。また、ボランティアを受ける人はされることに慣れていることもあると思う。行政等はそこを分かっているのかということと、ボランティアをする人が少ない現実を区としてどうとらえているのかを聞きたい。
- ・グループディスカッションのテーマが話しやすいテーマで、具体的に話せて良かった。また、介

護予防リーダーによる体操実演も良かった。

- もう少しテーマに沿った話でみなさんとお話したかった。ファシリテーターとして、もう少し話を進めていただけたらと思った。
- もっと多くの人とつながりたい、可能なら名簿が欲しい。
- もっと地域に目を向けてできることを探してみたいと思った。
- 墨田区でのボランティア初心者向けの動画があれば、仕組みや様々な領域の活動が生の声とともに知れると思う。

【70歳代～】

- 健康について取り上げてほしい。
- 講師のお二人の顔が暗くて見えづかった。投影資料も大事だが、お顔が見えることも大事だと思う。また、若い世代のボランティアの方が参加できる内容、日程にしてほしい。
- グループディスカッションの途中の進行案内は話が中断されるためないほうが良い。各グループのファシリテーターが進行したほうが、グループごとのペースに合わせられて良いと思う。
- 運営がスムーズでよかった。
- 第1グループのファシリテーターも参加者も楽しく、実りが多かった。
- 皆さんから元気をいただいた。
- 新しい人と話ができて楽しかった。

年代

年齢	人数	年齢	人数	年齢	人数	年齢	人数
～20代	4名	40代	8名	60代	12名	80代以上	8名
30代	4名	50代	7名	70代	19名	未回答	3名

※参加者の年齢の推移（平成29年度～令和7年度）

※アンケート提出者から算出

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	20-40代	50-80代
29年度	0%	3%	5%	22%	33%	22%	4%	8%	92%
30年度	4%	4%	9%	11%	30%	30%	5%	17%	83%
元年度	1%	9%	7%	17%	25%	27%	13%	17%	83%
3年度	0%	4%	2%	11%	25%	40%	9%	6%	94%
4年度	8%	3%	3%	16%	16%	35%	9%	14%	86%
5年度	14%	6%	7%	18%	29%	17%	9%	27%	73%
6年度	14%	10%	7%	17%	15%	27%	7%	31%	66%
7年度	6.5%	6.5%	13%	11%	19%	31%	13%	26%	74%

住まい

墨田区内：49名 墨田区外：11名 未回答5件